

外国語－１０（第３学年） 内容について意見や感想を書くための読み取りの事例
【学習活動の概要】

1 単元名 「Let's Read 2 Family Rules」

2 単元の目標

- 未習語があっても、前後の流れから推測して内容を読み取ろうとする。
- アメリカのしつけについて自分の感想を書くことができる。
- 英文を読んで、日本とアメリカのしつけについての考え方の違いについて理解することができる。

3 評価規準

- 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・未習語があっても、前後の流れから推測して内容を読み取っている。
- 【外国語表現の能力】
- ・アメリカのしつけについて自分の感想を書くことができる。
- 【外国語理解の能力】
- ・アメリカのしつけについての考え方を読み取ることができる。

4 教材

まとまった英文を読み、アメリカの家庭生活の様子を理解し、アメリカのしつけの在り方について考える単元である。この単元を学習する段階では中学校において取り扱う文法事項はすべて既習であるため、それらの知識を活用しながら、まとまった英文を読み取ることができる力を養う。「タイムアウト」や「外出禁止令」といったアメリカのしつけについて自分なりの意見や感想を書くことができるよう、英問英答や書き手の意向を踏まえた音読などを通して書き手の意見を読み取る言語活動を取り入れる。

5 主な学習活動

(1) 単元の展開（全４時間）

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一時	・ 全体の内容を大まかに把握する。 （各段落の最初の文を抜き出し、アットランダムに生徒に提示し、順番通り並べ替えるようにグループで考える。）	・ 逐語和訳するのではなく、あらすじを大まかに読み取らせる。
第二時	・ 前半部分の「タイムアウト」についての英文に出てくる重要表現や語句について確かめる。 ・ 内容についての英問に答え、段落ごとの意味を把握する。 ・ 音読する。	・ 音読については、ペアやグループ活動等を取り入れ、マンネリ化しないようにする。
第三時 本時	・ 後半部分の「外出禁止令」についての英文に出てくる重要表現等について確かめる。 ・ 内容についての英問に答え、段落ごとの意味を把握する。 ・ 音読する。	・ 第二時に同じ。
第四時	・ アメリカのしつけについて、日本と比べながら自分の考えをまとめ、舞に返事を書く。	・ 事例や根拠を示しながら、自分の考えを書くように指導する。

(2) 本時の学習（３／４時間）

目標：「タイムアウト」の内容を読み取り、意味内容にふさわしい音読をする。

展開：

- ① 新出語句の確認

- ・辞書を活用し、教科書以外の例文も確認する。
- ・CDを聴きながら、発音やアクセントを確認する。

② 内容把握

- ・英問に答える。(ある程度自分で考えたらペアやグループで確認する。)
- (1) How old is Kelly?
- (2) Why was she grounded by her parents?
- (3) When are American teenagers grounded?
- (4) Why does Mai think her host families are very good parents?
- (5) Do you agree to the idea, "It takes work and patience to have a happy family?"
- (6) Why do you think so?

③ 音読

- ・コーラスリーディング (CDの後についてリピートする。)
- ・シャドーイング (CDの音声と同時に音読する。)
- ・リード&ルックアップ
- ・四方読み
- ・ペアワーク読み (ペアで交互に音読する。)
- ・グループワーク読み (4人グループで順番に流れよく音読する。)

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

新学習指導要領においては、4技能をバランスよく育成することの必要性が強調されているが、本単元はLet's Readという読み物教材であるため、「読むこと」に焦点をおいた指導を計画した。その上で、今回の改訂では、「読むこと」において(オ)「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。」が新たな指導事項として付け加えられていることを考慮し、単元の最後に、学習した内容を踏まえて、書き手に対して意見や感想を述べる英文を書く活動を取り入れた。

【言語活動の充実の工夫】

単元の最後の時間で意見や感想を書くために、それまでの授業において、

- ・英文を英文のまま段落ごとに読んだり、書き手の意向を踏まえながら音読したりする活動を多く取り入れる。
- ・文章を読む前に、英問を生徒に示すことにより、どのような内容を読み取ったらよいのかを事前に生徒に把握させ、そのことを意識しながら読解できるようにする。

といった工夫を取り入れた。その際、

- ・生徒が、「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり、賛否やその理由を示したり」できるように、内容把握のための英問に、賛否やその理由が答えとなるような問いを加える。
- ・音読においては、意味内容を正しく理解し、その内容にふさわしく音声化することの意義を説明するとともに、ペアやグループといった学習形態を活用しながら様々なバリエーションによる音読活動を取り入れ、積極的に音読できるように工夫する。

などの点に注意した。

これらの工夫により、英文を一文ごとに和訳させるのではなく、英問に答えられるように読解する活動により、「読む」ことの必然性を与えることができたと考える。また、第一時で、単元の最後に舞に返事の手紙を書くという活動を行うことを生徒に示したことにより、批判的に読むという意識を生徒にもたせることができた。さらに、批判的な読解を促進するために、自分の家族の決まりやしつけを思い起こさせ、本文の内容と比較しながら、それぞれの良さや課題点について、根拠や理由を示して舞に返事を書くように指導したり、手紙文を書いた舞に、実際に返事を書くという設定の下で書く活動を行ったりしたことで、自分の考えや意見が舞に伝わるように「書く」活動につながった。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類：①、②、④ (※分類番号はP5表参照)